

町立辰野病院運営委員会会議録

日時 令和7年2月20日(木) 15:00~17:30

場所 町立辰野病院 講堂

【出席者】(委員) 金子文武 山田弘司 舟橋秀仁 小林テル子 古村慎二 石崎 玲
赤羽正臣 松澤 恵
武居町長 漆原院長 桑原事務長 清水看護部長 春日事務長補佐
相澤医事係長 今福経営コーディネーター
中村庶務係長 (議事録作成)

【欠席者】(委員) 村上順彦

進行 15:00 桑原事務長

(桑原事務長)

予定されている委員の皆様全員お揃いですので、協議事項までは私の方で説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

最初に資料の確認をお願いいたします。まず机の上に本日の次第で資料ナンバー2と書かれました。ホチキス止めの予算書案でありますけれどもこれ、一応事前に郵送で送付させていただきましたけれども、差し替えをお願いいたします。右上に追加資料と記載しました令和7年度予算案等についてという資料になります。また、事前にお送りいたしました資料ナンバー1と資料ナンバー3は、お手元にございますでしょうか。

本日、村上先生より欠席の連絡をいただいておりますのでご報告いたします。

それでは開会の言葉を山田副委員長をお願いいたします。

(山田副委員長)

どうも皆さん、こんにちは、どうもこんにちは、

だいぶ変化があった中で大変だと思いますけれど、今日は病院の関係について本当に根が深く、難しい問題でございますので、皆さんにいいアイデアを出していただいて進めていきたいと思っております。今日はよろしくお願いいたします。

(桑原事務長)

ありがとうございました。

それでは武居町長よりご挨拶をお願いいたします。

(武居町長)

皆さん、こんにちは、お忙しい皆さん、本当にご足労をいただきましてありがとうございます。

最近の話からさせていただきますけど、数週間前、インフルエンザやコロナもいまだに感染者数がなかなか落ち着かないというような報道もなされていまして。今月に入って私たちも昨日、予算のプレス発表をさせていただき、いよいよ予算の最終に差し掛かったときに課長職 2 名がインフルエンザにかかってしまって査定も急遽中止だったり延期だったり、そんなような状態になってしまいました。ようやくインフルエンザの行動が全く落ち着いた感はいたしますけれど、やはりまだまだ注意が必要かなと気持ちも新たにしている次第でございます。

また、本日の運営委員会の協議について、前回会議では今後の病院経営についての皆様からのようなご意見を頂戴いたしました。実は先日ある町民の方からちょっと電話をいただきまして、病院の方も本当に心配だなという声はず第一声だったんですけども、その方が感心したのは、内側の待合所の入る手前の右側の掲示板に「患者様の声」という掲示板掲示物がございます。内容は利用者の方からの声が掲示してあり、中にはこんなことを表に出したくないようなちょっと辛辣なご意見もありますけれど、それについても真摯に回答していただいた紙を貼ってありました。そういった内容を見て、本当に今の病院の真剣さを伝えてきたと、なんとかいい病院になるように、というようなお話でありました。

今日も協議事項の中では、現状報告、また今後の取り組みの方向性について後ほど説明させていただきますので、皆様のご意見等をぜひいろいろとお寄せいただきたいなと思います。それではよろしく、どうぞお願いいたします。

(桑原事務長)

ありがとうございました。

続きまして金子委員長ご挨拶をお願いいたします。

(金子委員長)

皆さん、こんにちは。大変寒くなったり暑くなったりということで、三寒四温のうちに春に向かっていく時期になりましたけれども、今日は予定された皆さん全員にお集めいただきまして、誠にありがとうございます。この辰野病院につきましては、新病院になって 12 年が経過してまいりました。その中でそれぞれ皆さんの立場で努力を重ねてきたという部分でありまして、それに加えて、辰野病院の運営委員会という部分ではこの辰野病院をいかに運営していったらいいか、この状況をどういうふうに打開したらいいかということを皆さんで協議をしてまいりました。

そんな中でありますけれども、自治体病院の経営というのが非常に難しい時期になってきたということで、皆さんからのお手元の数字を見る中でもご理解いただいていた、とそんな

なふうに思われます。ちなみにこの近くでは、つい最近伊那中央病院が 11 億 2300 万円の赤字を今回出したということ、またそのおとなりの昭和伊南のあたりは、病院を移転新築したいんだけど、どうもこの時期には好ましくないというようなことで、2 年は延長しましょうというような状況の中で、病院経営をそれぞれ本当に四苦八苦しながら経営されてきている状況であります。

この辰野病院の関係についても、現在の状況、またこのあとについても非常に心配される部分があるということのようでもありますので、どうか皆さんの本当に知恵という知恵を絞り出していただいて、この病院の健全経営に引き続き努力していただきますように、皆さんで応援をしてみたい、とそんなふうに思っております。

冒頭ですけどもこの委員長としてお願いでありますけども、先ほど町長さんよりお話がありましたけども、利用者の声というものが非常に大切になると思います。どうか今日は全ての項目を終わった後で時間がありましたら、こういう声を聞いているんだよということ。というのは、このお集まりいただいている委員の皆さんはそれぞれの立場での代表であるような立場の皆さんがお揃いであります。どうかこういう声を聞いたんだよ、ということをお聞かせいただいて、今後の病院経営の参考にしていってもらえればなと思いますので、その辺を今からお胸に置いていただいて、会議に参加していただきたいとそんなふうに思います。なお、今日のこの会議の時間ですけども、前もって大体終了の予定時間を申し上げております。大体 4 時 30 分くらいには一旦閉めたいとそんなに思っていますので、そんなふうに皆さんのご協力をお願いしたいと思います。大変に今日はご苦労さまでございます。

(桑原事務長)

ありがとうございました。

続きまして、漆原院長お願いいたします。

(漆原院長)

本日はお忙しい中、調理施設の病院運営委員会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

ご存知のようにアフターコロナとなった今、全国的にも病院経営の厳しさが一層深刻化しており、病院の約 8 割は赤字財政と言われ、医療法人の倒産ですとか、病院の倒壊などが毎日のように報道されています。当院でも昨年 11 月の臨時運営委員会で報告しましたとおり、今年度は大変厳しい運営状況に陥りまして、町から追加の繰り入れをいただくことで何とか年を越すことができました。今年は当院の財政運営を改善すべく新たな方向性を展開していく必要があると強く感じています。詳しくは後ほど説明申し上げますが、病棟再編に着手する必要があると考えております。地域医療はこれまでにない局面に携わっており、当院ではそれらに対応しながらも、引き続き地域の方々に安心して喜んでいただける医療を提供することに専念してまいりたいと思っております。

本日はよろしくお願ひ申し上げます。

(桑原事務長)

ありがとうございました。

それでは次第の3番「病院長からの報告事項」になります。

漆原院長よろしくお願ひいたします。

(漆原院長)

引き続き、着座でお話申し上げます。

特に今日配布資料を作っておりませんので、そのままお聞きいただければと思います。

いくつかの項目がそれぞれにありますので関連のない話も出てきますがお聞きいただければ幸いです。

まず、先ほどお話しした病棟再編案のことに関して、昨年の6月からの診療報酬改定において、急性期一般病床の基準が厳しくなりまして、当院ではこれまでの急性期一般4の維持が難しくなったことや、当院入院患者のこれまでの疾患や傾向を考えまして地域包括ケア病床で対応可能な場合もほとんどあることなどから、1人当たりの入院基本料が比較的高く安定している地域包括ケア病床の増床が収益アップのために望ましいものと考えています。そこで昨年秋に長野県の健康福祉部医療政策課を通じて専門業者による病院の経営診断を受けました。そこで地域包括ケア病床を現在の37床から増床した場合の収益性について、数パターンのシミュレーションを作成、提示してもらいました。具体的には今の100床のまま地域包括ケア病床を50から80くらいの幅で増床する案と100床全てを地域包括ケア病床にするなどの案であります。詳しくは後ほど担当者から説明いたしますので、ご意見、ご検討のほどお願ひ申し上げます。

(漆原院長)

続きましてここ最近の状況ですが、昨年12月までは病床利用率が70%を少し上回る程度で低迷していましたが、今年1月からはこの寒さとかインフルエンザの予報もありまして、入院がかなり増えまして、85から90%前半程度にまで上昇しました。今月2月には90%を超える日も結構ありまして、自然現象的な流れとして増加したんじゃないかと考え、このことから100床規模の病床数維持は当面必要ではないかと思われます。また、当年度の病床利用率は最終的に73から75%程度となるのではないかと考えております。

続きまして、常勤医師ですが、就学資金貸与医師として昨年の4月から着任しておりました中竹香峰医師が当院常勤として勤務を継続することが決まりました。中竹医師は内科に限らず救急や一般外科診療にも通じており、大変に助かっております。また、救急患者の受け入れや入院患者の受け持ちに積極的で、診療を依頼した際の対応なども優れていて職員や患者さん、救急隊員などからも非常に評判の良いドクターであります。彼が来てからは救

急車の受け入れ人数も明らかに増えました。この4月からは内科医師から総合診療科長のポストに昇格としまして、診療を担当してもらおうかと考えております。また、今後当院の経営管理部門でもその手腕を発揮してもらえればと期待をしております。病院としても彼は今後定着してくれるように働きかけをしていきます。中竹医師のような集客性のある常勤医師の存在は救急や入院患者数の増加に大きく寄与しているものと考えます。

(漆原院長)

あともう一つ、外来について新たに昨年の10月から火曜日の午後に杉浦医師、それから2月から月曜日の午後に下川医師が非常勤医師として外来診療を担当しております。今後、これからのことについてですがこの4月から伊那中央病院のフットケアセンターの山口医師が当院で週1コマフットケア外来を担当していただく予定です。

それからもう一つ話題としまして学会開催のお知らせなんですが、今年の6月28日の土曜日と29日の日曜日に第69回の長野県国保地域医療学会がこの辰野町民会館を会場に開催されます。当院が開催担当病院でありまして、私が学会長を務めさせていただきます。本学会は、長野県の地域医療を担う医療関係者が年に1回集いまして、講演会や研究発表、シンポジウムなどで構成される歴史ある学習研究会です。今回のメインテーマは「地域医療の原点から近未来に向かって—これからを見据えた地域医療とは—」であります。当院が開催担当となるのは2000年に当時の院長の一條正芳先生が学会長を務めて以来の25年ぶりとなります。それから今年の8月に病院機能評価を5年ぶりに更新のため受診が予定されてまして、審査内容は非常に広くて、詳細厳格ですので、しっかり準備して審査に臨む予定です。今回、バージョン3.0ということで、カルテの内容のチェックなんかも非常に厳しくなっていることで、早々に準備をやっていかなければならないということになります。

(漆原院長)

あと、病院の中でプロジェクト会議というのがあって病院の利便性なんかをどうしたらいいだろうかというところで、高齢者の通院支援を町のデマンドタクシーなどをより便利に連携させることはできないかなという意見がありましたので、朝からお昼ぐらいの時間にかけて町内各所から当院へ往復便を増発するとかちょっと検討いただければなど、こういう意見があったということをお知らせさせていただきます。

そして最後の事項としましては、今話題になっている医療DXへの対応です。いわゆる医療のデジタル化を当院でも今年どんどん対応していかなければならないという問題があります。簡単に申し上げますと、マイナ保険証の利用率の向上。それと電子処方箋の導入。まずこの2つ。マイナ保険証の利用率に関しては一番集計が最近のもので、昨年の11月の時点でマイナ保険証の利用率15%ということになっています。もう一つ電子処方箋の導入です。これちょっとデータをお話ししておきますが、厚労省のほうで出しているホームページで、全国の病院で電子処方箋の導入率が4.2%と非常にまだ低い。長野県が7.5%ですね。薬局は

逆に全国が 62.7%、長野県が 67.5%。結局薬局の方は電子処方箋に早く対応した方が患者さんやお客さんが集まるので直接結びつくんですが、病院側はいろいろ手続や費用の問題などがやはりハードルなのかなと考えております。ちょっと少々長くなりましたけど、こんな項目を最初に申し上げておきます。以上です。

(桑原事務長)

ありがとうございました。これより協議事項に入ります。
ここからの進行につきましては金子委員長お願いいたします。

(金子委員長)

それでは協議事項に入りたいと思います。
まず、最初に町立辰野病院運営状況につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

(桑原事務長)

それでは私の方より辰野病院の運営状況について説明をさせていただきます。
着座にて失礼します。

資料No.1 経営状況一覧表（2022年12月末現在）について説明

後ほど、経営改善に向けた取り組み内容についてもご説明いたしますけれども安定経営を目指して今後も職員一丸となって取り組んでまいりたいと思います。運営状況については以上となります。

(金子委員長)

ありがとうございました。
それでは今の一覧表をご覧いただいたものということと、それから説明の内容を聞いた中で皆さんから質問を受けたいと思います。これはあくまで経過という部分での説明になります。最終的には改めて8月のこの会議で報告になるという格好になろうかと思っておりますけれどもよろしいでしょうか。では、この項目は終了させていただきます。

続きまして2番。

令和7年度町立辰野病院事業会計予算案につきまして説明をお願いいたします。

資料No.2 令和7年度町立病院事業会計予算（案）について

上記について事務長、庶務係長より説明

(金子委員長)

はいありがとうございました。

それではただいまの資料の説明の中でわからないものとか改めてご質問とか今なりましたらお受けしたいと思います。

(古村委員)

資料の方の収入というのは繰入金いうのを含めた収入ということなんですね。国からいくらかって決まって入ってくる部分があると思うんですけど、その額ってわかるんですか。

(中村庶務係長)

町からの繰入金は次年度 4 億 5000 万円で予定しております。

(金子委員長)

はい、その他の方お願いします。

ちょっとつなぎに私の方で質問しますね。

各種システムあるいは機械の導入とかそういった部分が入ったことによって人員を減らしていくとか、そういうようなことを研究はされていますか。

(桑原事務長)

職員数につきましては基本自然減です。けれども会計年度任用職員については、勤務時間を減らしていただいて、人件費を少しでも減らしていく、というような対応は取らせていただきました。システムを入れたからといってすぐ職員が減るというわけではなくて、そのシステムをいれるにあたってはものすごく労力が必要で、すぐそれに対して職員減ということは今のところは考えておりません。

(金子委員長)

はいありがとうございました。

では、委員の皆さんどうぞお願いします。

(舟橋委員)

昨年の予算書に予定よりだいぶ減っているように見えるんですが、説明の中でトータルマイナス 5 人という説明があったんですけど、これは医師の方とかここに書かれている方以外の、例えば事務に関わる方とか会計年度任用職員とか、そういう方が主に減っているという理解でよろしいですか。

(中村庶務係長)

採用について先ほど申し上げた 5 人にプラスして 6 名ほど予定していたので、そちらの分が加わっております。ただ 4 月 1 日現在で比較しますと、実際には当院に来なかった、採用がなかったというところで 6 名分減っております、実際の数で言いますとマイナス 5 名なんです、予算だけで比べますと 11 名減っているという状況でございます。

(舟橋委員)

患者数が軒並み減ってるが減少している理由というのは、ある程度想定されていらっしゃるのでしょうか。

(漆原院長)

これはいろんな要素が組み合わさって減ってきている状況になります。これが原因というものは具体的になかなかわかりにくいというのが現状で。ただ、患者さんを増やすような取り組みやその行動をやっていかなきゃいけないと思ひまして、具体的に試みた内容については、前回 11 月 28 日の運営委員会で資料を配布して、具体的なところは申し上げたところになるかと思ひます。

(金子委員長)

はい、ありがとうございました。

委員の皆さんに先ほど 4 時 30 分頃と言いましたが、少し時間を延ばさせていただきます。

特にいろいろご用事のある方は途中退席もやむを得ないと思ひますので、その辺はよろしくお願ひしたいと思ひます。

はい、それでは質問を続けてお受けしたいと思ひます。

(金子委員長)

訪問看護の関係ですけれどもこれについて結構数字が極端に増えたり減ったりしますけれども、経営状況の数字を見てもそうなりますか。

(清水看護部長)

訪問看護の方は、やはり、入院されたりするとどうしても実際の数が減ってしまうので、入院されている患者さんが多い月は訪問に行く数が減ってしまうというところがあるので、その影響かと思うんです。

(漆原院長)

訪問診療も訪問看護も必ずしも安定して在宅にいられる方を見ていないので、途中入院退院に繰り返すんです。そうすると、訪問診療していた方の入院がたまたまパタッと増える

と訪問診療の変化が減りますし、訪問看護についても在宅にいた方が一時的に入院が多くなったりするとその時期が減るという現状です。通年通じるとそんなに増減はないと思います。特に需要が増えているとか減っているという傾向は感じられないということですかね。

(金子委員長)

はいありがとうございました。

はい結構です。

その他の方システムのことで1点伺いたいんですけども、

(舟橋委員)

このいただいた資料の新しいシステムの絵の中に電子処方箋のシステムが書かれていますけれども、これは導入されるのでしょうか。

(春日事務長補佐)

導入予定です。

(漆原院長)

電子処方箋は、医療DXの関連から国の方で全面的に推進していますので、電子処方箋は早急に導入する方針でやっていかないといけないと思っています。ただ先ほど言ったように、病院の電子処方箋の導入率がまだ5%を全国的に切っている状況なので、先進的なところのやり方を勉強している最中ですので、それを進めていこうと思っています。

(金子委員長)

はいではその他の方お願いします。

(小林委員)

マイナ保険証の利用率は未だ15%だということでその辺と電子カルテシステムとの関連性というのはありますか。

(春日事務長補佐)

基本的には関係がないです。マイナンバーカードについては、なかなか利用が進まない。使いたくない人も使えていなくて出してくれないので、病院ではご利用してください、と言っているところなんですけど、なかなか進まない。システムは導入できているのでそこまでは問題ないですが、電子処方箋については今のところ機能をつけていないので、これからという形になります。

(小林委員)

マイナ保険証に関して進めていくということでありますけれどもそのあたりについては、具体的に何か対策とかお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

(漆原院長)

そうですね。なかなか難しく、病院として何か広告を出したりアピールをしたりということは基本的にはしてないです。病院の窓口で声がけはしてます。去年の秋の病院祭で事務職員と私とステージに登ってマイナ保険証を利用しましょうというような啓発寸劇をやっております。あとは、全国的にテレビとかである程度広報されてますし、社会的に啓蒙していくと思うんですけど。

(古村委員)

全く同感です。

(小林委員)

そういうことでよろしいわけですね。

ちょっと追加説明をさせてください。

(春日事務長補佐)

マイナンバーカードについては、本当に使う人は使って、やり方がわかった人は次もやってくれるんです。ただ全く今保険証しか持ってないって来ちゃう人の方がまだまだ多いです。その人たちは結局マイナンバーカードを持ち歩かない。だから、いかに声をかけても次にもって来るよ、ということにはならなくてですね、一生懸命言っただけはいるし、進めてはいますけども、実際に動かないという人が多い、というのが現状です。

(小林委員)

私自身もそう思っているんですけど、例えば受診がしにくくなるとか、そういうことがないようであってほしいな、というふうに思っております。

(古村委員)

ほぼ同じ状況で、うちも14%です。マイナ保険証は本当に一番最初の初診の時にはこちらの事務手続が非常に楽ですので出していただきたい。特に当番医の時、あるいは救急のときは非常に役立つんですけども、再診に関してはほとんどメリットはこちら側にもないし、患者さん側におそらくほとんどないと感じています。電子処方箋も同じで、運用してるところにお話しすると、うまく回ってるときはいいんです。何も変更がないとかはいいんですけど

もちょっとでも変更があると全部やり直さないといけない。正直、あれ入れたら病院の診療に回らなくなるとと思います。

(漆原院長)

ちなみにですねこの令和7年の1月からは、このマイナ保険証の利用率のいわゆる加算に対する比率がだんだん数字が上がっていく。医療DXの加算の一番低いラインが15%、15%以下ですと、医療DXの加算が取れない。次のランクが30%、一番上の点数が高いランクが45%ですから、マイナ保険証の利用率によってこの加算点数に差をつけて病院の収益にも影響が出てくるという診療報酬で、それでマイナ保険証の利用率をアップしようという、そういう仕組みになっているわけですね。

(金子委員長)

はい。薬局の関係はどうか。

(石崎委員)

薬局のマイナ保険証の利用率はさらに低くて、加算も今は取れていないという状況です。ただ先生方おっしゃるように進めるメリットがあんまりなくて、本当に保険証なくなっちゃったら使わざるを得ないと思うんですけど、現状はほとんどの方保険証持ってらっしゃるし、逆にうちもシステムの問題で時間かかるんですよ。待たされて何のメリットがあるのっていう感じで、あと電子処方箋が薬局の方に進んでいるというのは先生がおっしゃったように受ける側なので、どこか一箇所でもやると受けとかないと患者さんが来た時に困っちゃうんですよ。それでうちも入れてはいるんですけど、でも実際受けている件数は導入してから3ヶ月くらい経つんですけど、今3件とかそんな具合です。ないことはないけどという感じです。

(漆原院長)

上伊那でも電子処方箋発行できる医療機関があまりないんですね。

(石崎委員)

あんまりないです。

(漆原院長)

辰野箕輪はどこか発行するところありますか

(石崎委員)

一部開業医で出しているとか聞いたよううちで受けてはいないんですけど、まあそれぐ

らいです。

(桑原事務長)

1点補足させてください。この追加資料の4ページに、6年度の繰越として病院情報システム 2.5 億円と記載させていただいております。この中には電子放線システムの導入費用も含まれている。金額になりますので、この2.5億円の中で、電子処方箋の方も導入してまいりますのでお願いいたします。

(金子委員長)

よろしいですか。

それではその他の部分で予算に関する部分での質問がありましたらお受けしたいです。なければ、それではここで予算書案に対するこの委員の皆さんの採決を取りたいと思います。それでは令和7年度町立辰野病院事業会計予算案につきましてご承認をいただけますか、よろしいですか。はい皆さんご協力ありがとうございます。

それでは今項目の(2)が終了いたしました。

続きまして(3)町立辰野病院経営強化プランにつきまして説明をお願いいたします。

(中村庶務係長)

資料No.3 「町立辰野病院経営強化プラン」について
上記について説明

(金子委員長)

ありがとうございました。

この経営強化プランにつきましては、これからの展望も含めて作られた資料かと思いませんけれども、委員の皆さんで質問事項ございましたか。

(舟橋委員)

この強化プランというものの位置づけが分からなくなってしまったんですけれども、プラン自体を修正するということですか。これはどういう時にプランの修正をするんですか。通常の5カ年計画とかいうのを立てますよね。それに対して、例えば毎年の実施計画とかいうので、実績と計画に対してこういう乖離がありましたってありますけど。

(中村庶務係長)

ご指摘のとおり、本来であれば経営強化プランを策定した際に計画でありますので、その5年間はその計画に基づいて病院として実施していくというところが当然だと思います。ただ、当院の状況としましては、令和5年度につきましては1億2000万円の赤字。令和6年

度につきましては1億2千万円を追加で繰り入れをいただくというような状況で、これは病院の経営上著しく状況が変化するというふうに該当するかと思います。その際には経営強化プランの本文にも計画の変更をする場合があるという記載がございまして、今回はそれプラスですね。繰入金も状況が変わりまして、金額の方を当院の方向性としても変えたいという意味合いもございまして、今回は変えさせていただくと、こちらについては毎年変えるのではなく、あくまで今回変えたもので、令和9年度までそれを目標値として運営していくという予定でございます。

(漆原院長)

結局プランは立てたが、状況の変化に応じてより現実的な将来性を数字にしていく作業ということかと思います。

(舟橋委員)

わかりました。

ちょっと今どこにあったか町の承認を得ましたって書いてありましたよね。

(石崎委員)

それは私のことに違います。書いてないんですか。

(舟橋委員)

これは別にこの運営委員会でこういう強化プラン変更になります。

皆さんよろしいですか、ということですかね。

(中村庶務係長)

追加資料の1ページ目の右側に経営強化プランの修正予定ということで「町に承諾済み」ということで記載してあります。前後して申し訳ないですが、町と金額の交渉は済んでいまずという意味合いで書かせていただきました。本来であれば、プランを変えることは運営委員で了解いただき、その上で予算化して議会の承認をいただくという流れで考えておりました、今回はここでご承認いただいた上で、進めていくということで考え、今回、協議事項に出させていただきます。

(舟橋委員)

ありがとうございます。

私もこういう複数年にわたるプランというのは、作ってから5年間、何も手を入れないということは不自然で、こういうふうに変更するのはいいと思うんです。ただ変更したからにはそれに対しての責任というか、その数字を達成するためにこういう努力をしてきました

とか、そういうのがきっと求められると思いますので、その辺は皆さんお分かりだと思いますけど、しっかりやっていただきたいなと思います。

(金子委員長)

はいありがとうございました。

ただいま意見をいただいたように、またプランの経過等々につきましてはまた運営委員会のほうに報告をお願いいたします。そのほか、どうでしょうか。

(桑原事務長)

すみません。

追加資料のほうをご覧いただきたいと思います。

追加資料 今年度の取り組み(P6)

上記について説明

(金子委員長)

ありがとうございました。

はい経営強化プランにつきまして、皆さんご質問ありましたらお答えします。

(小林委員)

この強化プランのところを見ますと、高齢者のところにある程度特化したというか、そんなような傾向にあるのかな、というふうに思ってしまう部分があるんです。それで、前の時にも午後診療も検討していただけないか、というような話もさせていただきましたし、それからすぐそばに病児病後児保育施設がこの同じ敷地の中にできるというようなこともあります。若いお母さんや子どもを持つ人たちのところをぜひ強化して行ってほしいなというふうに思っています。

(金子委員長)

はいじゃあ、院長。

(漆原院長)

貴重なご意見ありがとうございます。

確かに小児科に関してはここ数年幅の広がりという部分がないのが現実ですので、また日高医師も交えて、院内でも検討して、今後できるようなことがないかどうか、また話し合っていきたいと思います。

(金子委員長)

ご意見ありがとうございました。その他の方。

(桑原事務長)

午後診療の要望があるということは本当に十分承知しておりますけれども、やはり日高先生一人でやってらっしゃるので、午後は検診や予防接種で、午後に診療時間を取るということも厳しい状況です。もっと充実させるには医師を1人増やすしかないのかなというところで、本当にどこも小児科医療というのは本当に厳しい状況なんじゃないかな、ということをおもっております。

(小林委員)

一人体制でやっていることも十分承知しております。ただそういったところを持つということが、この町の中に子どもたちが留まっていくというか、そういうことにつながるというふうに思うものですから、ぜひそのところは検討していただきたいと思っております。

(金子委員長)

はいありがとうございました。

時間がだいぶ長時間になっています。けれども。それではこの部分で辰野病院の経営強化プランにつきまして、資料をもとに説明をいただいているということで、この結果において承認をしてよろしいでしょうか、はいありがとうございました。

1から3まで協議が終了いたしました。

それで4番その他につきましてお願いいたします。

(相澤医事係長)

今年の1月から経営企画係長になりました相澤と申します。

よろしく申し上げます。経営診断の経過についてご説明いたします。

追加資料 病院機能再現連携強化支援事業(P7)

上記について説明

(金子委員長)

新設されました経営企画係長の説明でした。皆さんお考えをどうですか。

(桑原事務長)

引き続き、ご説明いたします。

追加資料 地域に密着した病院としての取り組み案(P8)

上記について説明

(金子委員長)

はい。今、説明いただきました。

その他の項目でありますので、ご協力の時間になりますけれども、冒頭にお約束をいたしました。今説明ありましたが、地域に密着した病院ということの取り組みの部分でありますけれども、委員の皆さんの中で外からこういう情報を聞いているとかがありましたら、次で発表なり、報告なり、検討なり、お願いしたいと思います。どうぞ

(赤羽委員)

すみません。

ホームページを見ますと、何曜日に何々の先生と出てます。信大の先生のところは信大医師とか書いてあるじゃないですか。こう見ると、なんとなく不安を感じるんですよ。信大って書いてあるだけだと、例えば医師名がわかるんでしたら医師の名前を入れていただいた方がいいんじゃないかなと思うんですけれど。毎週とか毎月で変わるんですかね。

(中村庶務係長)

科によっては、週替わりとかで交代する場合がございます、ご意見いただいた中でなるべく可能な範囲でお名前を出させていただくように変更していきたいと思います。例えば3ヶ月単位とかで。

(赤羽委員)

受ける方としては安心できる部分がある。

(古村委員)

今の話はすごく共感できて、ぜひやっていただきたいと思います。今のこのネット社会のいいところですので、ぜひこういうご意見を入れていただけるといいんじゃないかというふうに思います。

最後にこの地域に密着するということを見させていただいて、非常に理にかなってるし、周りが実際に求められているところを的確に捉えて、しかもかなり既にできている案だと思っていますので、ぜひこういう方向で進めていただければ良いと思います。

(小林委員)

議会の方でタウンミーティングということでいろんな地域を行わせていただいて、そのところから出てくる意見のところ、行ったんですけれどもまだ11時半前だったけれども受付をしていただけなかったとかね、もう今日は終わりましたというようなことで断ら

れてしまうとか、それから予約で何時なのでということで来てください、ということで 11 時に行ったんだけども予約なんだけども 2 時間以上待たされて本当に具合が悪い時に 2 時間以上待たされてもう次は行くのやめようかな、というふうになってしまうことがある。というようなそういった声が非常にあちこちの地域から聞かれていますので、運営委員としてお伝えしておきますということはそのタウンミーディングの時に申し上げてまいりました。

(金子委員長)

ありがとうございます。

そんなことで、任期 7 月 31 日までということでありますので、一応ご承知をいただきましたということと、これまでのご協力に対しまして大変感謝申し上げます。ありがとうございます。では、これをもちまして協議事項が終了いたしましたので、事務局へお返しいたします。

(桑原事務長)

長時間にわたりまして、慎重審議いただきましてありがとうございました。

また、貴重なご意見を多くいただきましてありがとうございます。

今後いただいたご意見を活かせるように院内で共有してしっかりと検討してまいりたいと思います。

今年度におきましては 11 月に臨時の運営委員会も開催しまして 3 回の運営委員会ということで、皆さんには大変ご協力をいただきましてありがとうございました。

それでは閉会の言葉を山田副委員長お願いいたします。

(山田副委員長)

長時間にわたりまして運営委員会ご苦勞様でした。

患者と職員の皆さんのコミュニケーションいろいろと病院に深いものがあると思いますけれど、もっと職員とこういう意見を出さなければよくなっていかないと思います。

こういう意見の話し合いはできると思いますので、町の代表としても職員に伝えていければ、より町も病院もよくなっていくと思います。

本当に長時間ありがとうございました。

(桑原事務長)

ありがとうございました。